

# ふみ出す！ 第一歩！！

## ケアホームとうごうでの新しい生活

平成24年3月1日、重度の知的障がい者の方が地域でも安心して暮らすことができる生活の場として「ケアホームとうごう」（以下、「とうごう」）が開所しました。今回はとうごうが開所に至るまで、そして今の利用者の方の様子をご紹介します。



### ケアホーム とうごう

場所: 福井市東郷 JR越前東郷駅の目の前  
 建物: テナントビルの3階部分  
 定員: 10名(男性利用者の方)  
 職員: 5名(交代制)  
 居間: 畳の間があり、冬になるとこたつを出して  
 アットホームな空間

※日中は、生活介護事業として足羽更生園の「羽生の郷」などの作業に参加。  
 ※緊急時対応は、足羽更生園がバックアップを行う体制をとっている。

「来たんか。こっちこっち」取材した職員がとうごうに行くくと、利用者の方は温かく迎えてくださいます。「見せてみて」と自慢の部屋を見せたくて、職員の手をひっぱり案内してくださいます。

ご家族の方からも「久しぶりにこんな楽しそうにしている表情を見た」など、とうごうでの新しい生活は大変喜ばれています。

### とうごう誕生！

現在、足羽更生園の10名の男性利用者の方が、住まいをとうごうに変えて生活を始めました。

足羽更生園にとって、ケアホーム事業は初めてということもあり、開所前の準備段

階では職員も手探り状況の中での取り組みでした。利用者の方に『ケアホームとはなんぞや？』というところからの始まりで、写真やイラストを使用して地域で生活をイメージを一緒に考えながら伝えていきました。

ご家族から「環境が変わることでは本人たちの大きな負担にならないでしょうか」「発熱やインフルエンザなどのときの職員体制はどうでしょうか」など、さまざまな意見も出てきました。その不安を解消するため、ご家族や利用者の方に向けた説明会や建物見学会を行い、定期的に話し合う場を設けました。

また、とうごうの職員を固定化することで、利用者の方のより細かい気づきに配慮できる環境にするなど、具体的な事柄も決まりました。

### とうごうに

### 行きたい

平成24年1月に入ると、入居希望の利用者の方対象



初めて見た！バナナの木



自慢のコレクションと共になっこり



地域の方と同じテントの下で昼食中

# みんなの広場

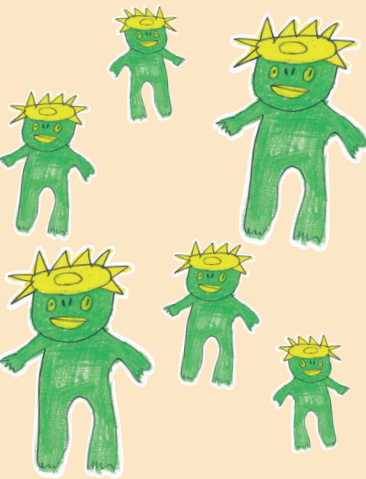
「カッパのマンガ」は愛道で平成15年～18年に連載されてきました。今回、復刻版として戻ってきました！！



自分で布団を畳みます



昼ご飯は何にしようかな～



に、とうとう宿泊体験を行いました。体験を重ねるごとに利用者の方が抱いていた不安や緊張が、期待や希望へと変化していく様子が表情や言動から感じられました。

建物見学会ではどの利用者の方も興味深く探索して、早くから自分の部屋を決めている方もいました。

田中義則さんは体験や見学を通して、作業や職員のお手伝いをこれまで以上に意欲的に取り組むようになりました。ときどき、職員に「あと何日でとうとうや」と、とうとうへの生活を心待ちにするなど、心身ともに十分に準備を整えてから新

しい生活をスタートさせました。

**ぼくも地域で生活したい**

平成24年4月14日、地域代表の方や大家さんも交えて、とうとう開所パーティーが開かれました。その中で利用者の方が、これからの夢を語る場面がありました。その姿はとても堂々としていて職員も家族のような心境で、胸が熱くなりました。

「羽生の郷での作業を頑張ります」

「毎日部屋掃除をします」

その言葉通り、作業活動や部屋掃除を頑張って取り組まれています。

また週末になると、皆で昼食の材料をスーパーに買に行ったり、公園を掃除したり、映画鑑賞するなど一人ひとりが充実した時間を過ごしています。

その様子を見ている足羽更生園の利用者の方も「地域で生活をした」という夢をもつ方が増え、次のケアホームを心待ちにされています。

**家族の声**

・「やりたい」「行きたい」など意欲的な言葉が増え、うれしく思います。

・本人が穏やかに過ごしている姿に安心します。

ケアホームとうとう職員

とうとうでは、利用者の方が穏やかにのびのびと生活できるよう、家庭的な空間づくりを目指しています。

今後は、季節に合った行事、バーベキュー、芸術鑑賞などいろいろなることを催していきたいです。地域行事や社会奉仕などにも参加をして、地域の方との交流を深めていきたいと思えます。

これからも細かい気配り、目配りを大切にして、利用者の方の笑顔があふれる支援をスタッフ一同、気持ち合わせて取り組んでいきたいと思えます。

中川 和典